

別の顔

放課後は



after

多いのですが、私は相手の懐に入り込み、右フックと左ボディを狙うインファイトでの戦い方を得意としています。パンチをしっかりと相手にミートさせる、空手での経験がボクシングでも生かされていると思います。

鹿屋工業高校
よしだ ひびき
吉田 響 さん(2年生)

鹿屋工業高校ボクシング部の副キャプテンで、志布志市出身。寮生活の中で、自分で身の回りの整理整頓をすることの大事さを勉強中。数学が得意科目で、釣りが好き。



school

空

手を小学3年生から中学3年生まで習っていて、組手が好きだったこともあり高校に進学する際にはボクシング部に入部しました。

ミドル級はリーチの長い選手が



10月には「燃ゆる感動がごしま国体」ボクシング少年男子の部でミドル級に出場。準々決勝で敗退し、5位という結果にはありませんが、良い経験になりました。目標は秋の県新人戦で優勝すること。まずは3ラウンドを全力で戦える体をつくるために、毎日の練習をハードにして頑張りたいと思います。

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!



タイム トラベル ~温故写新~

19話

鶴亀城本丸と地頭仮屋跡



現在の串良総合支所周辺は「地頭仮屋跡」、そしてその北側の小高い台地から串良小学校の敷地部分は「鶴亀城本丸跡」と呼ばれています。

応永末期(15世紀)から戦国期まで、約80年間にわたって串良を支配してきたのは、島津氏の重臣として大きな役目を担ってきた「平田氏」でした。城は、平田氏の初代重宗の晩年、あるいは2代氏宗のころに大幅に築城・修復され、3代兼宗の頃に徐々に徐々に拡張。最終的には本丸から南西側に広がる全部で7つの城郭と、巨大な堀を持つ難攻不落の巨城となりました。

16世紀末になると、島津氏は



▲「サイレン山」とも呼ばれた鶴亀城本丸跡。昭和から平成まで使用されていたサイレンと棟の跡が残る。

※現在は立ち入り禁止

大量に抱えた武士を山城の周辺に住ませ、薩摩藩内に武家屋敷群「麓」を110か所以上形成。麓には、地域の行政を担当する地頭が執務を行う「地頭仮屋」が設置され、その頃から串良の地頭仮屋跡付近にも城館が設置されていました。

廃藩置県後、地頭仮屋は小学校(旧串良小学校)に転用され、その敷地端の建物は大正中期まで旧士族青年の研修学舎として使用されていました。敷地があまりに巨大だったために、小学校や住宅地が次第に広がるにつれ城郭は失われ、県道73号線の開通で地頭仮屋跡はほぼ消失。現在は正門とその石垣が残されています。

正門と石垣は19世紀の構造物と考えられていて、周辺のソテツもその当時のもの。当時の支配の大きさと、現代までの時代の流れを感じることのできる城跡と言えるでしょう。